

課題図書 (感想文をかく本) 5・6年生



「色覚障がい」を隠して生活する信太朗。母親は試すようなことをしてくるし、症状を知らない級友から似顔絵の唇を茶色に塗ったことを馬鹿にされ、自信を失ってしまう。だが、担任の先生が信太朗に向き合ってくれて…。

「ぼくの色、見つけた！」

志津 栄子/作 講談社



1957年、ロンドン郊外の町。少年ミックはケガをしたカラスのひなを助けた。ひなはミックになつき、やがて地域の人気者になるが…。

「森に帰らなかったカラス」

ジーン・ウィリス/作 徳間書店



11歳の夏休み、ピーターはすべてうまくやれるはずだった。「生き物発見ノート」を完成させ、認知症のおじいちゃんの世話をし、けがをしたマナティーを守る。ところが…。

「マナティーがいた夏」

エヴァン・グリフィス/作 ほるぷ出版



殻を破り、壁を乗り越え、自分を好きになる。人前でしゃべれない内気な女の子が出会ったのは、難病をわずらう先生。仲間たちと力を合わせ、夢の舞台上に挑んだ感動の物語

「とびたて! みんなのドラゴン」

オザワ部長/著 岩崎書店

指定図書 (感想画をかく本) 5・6年生



ディスレクシア(識字障がい)のアーロンにとって、文字を読むことはとても難しいこと。勇気を出してクラスメイトに宿題の作文を発表した時、アーロンに変化が現れ…。

「ぼくのこころがうたいだす！」

アンドレア・ベイティー/作 絵本塾出版



春の相撲大会、小学生離れした真壁豪と対戦して、こてんぱんに打ちのめされた凡と健太。秋の大会で絶対にリベンジしたい2人は、元力士の駄菓子屋「わしや」に教を乞うが…。

「どすこい！」 森埜 こみち/作 国土社



父親と大げんかになった小学6年生の航太は、四国のじいちゃんの家で暮らすことに。でもそこは、電気も、お風呂も、トイレもない山小屋だった!

「じいちゃんの山小屋」

佐和 みずえ/作 小峰書店



左足にハンディをもつ双葉が、「おおなわ大会には出ない」と宣言。クラスメイトたちは双葉を支えたいが、その考えは人それぞれで…。年に一度のおおなわ大会。みんなが納得できる方法はあるのか? 5年2組がだした答えは-。

「おおなわ跳びません」

赤羽 じゅんこ/文 静山社



父親と森の中で半分自給自足の生活をしてきた少女オクトーバー。だが、思いがけない出来事が起こり、「母親とかいうひと」と過ごすことになり…。

「わたしの名前はオクトーバー」

カチャ・バーレン/作 評論社



ぼくらが夢見erことは、ぜんぶぜんぶ、ほんどうのこと。友だちのいない香奈多と、友だちをなくした瑚子。中1の夏、2人は秘密の場所で出会った。それぞれの夢と現実が重なる「もしも」の果てで、2人が見つけた宝物とは…。

「かなたの if」 村上 雅郁/作 フレーベル館